

又延寶古圖に、日本橋邊より白銀町を限りて、此所に、此土手より北は神田、南は江戸とあり。今江戸と云地は、大城を以て中央とし、大凡行程四里四方にして、其真中を府内と稱す。

江戸内外を分ツ傍示杭、江戸橋々已上二十九ヶ處ニ有之、元祿十一寅年ニ被建、右府外町並といへども、御年貢御代官御支配、其外万事町御奉行所御支配也。

〔江戸名所圖會〕江戸 豊島郡峽田領とす、其封境往古は廣くあらざるに似たり。○註 武藏國風

土記に、在土に作る、傳云、此地は大江に臨故に、江戸と稱せりといふ。武藏國軍艦に、江戸の邊りを中に云く、江戸太郎重長は八箇國の大福長者とあり、しかる時は、江戸の郷、日輪寺の方には、神田郷なり。しなるべし、南向亭いふ、平川一水を隔て、今の三の丸の地は、江戸の郷、日輪寺の方には、神田郷なり。と、こゝに平川と云は、今の飯田町の下より、攝州大坂御城内の雁水坂、舊名を大坂と號し、今の御城の邊りにし、江戸と云は、今の飯田町の下より、攝州大坂御城内の雁水坂、舊名を大坂と號し、今の御城の城の號に呼れし、よ、冊子に、行へい、地名か、と、白露の葉末に、むすぶ、浅草を、打越ゆげば、ほどもなく、むづまめ、ぐりにし、江戸の封城、今の如く、に廣大ならざるを、しるべし、天正巳降、江戸を以て、御居城の地となして、いにしへの江戸の封城、今の如く、に廣大ならざるを、しるべし、天正巳降、江戸を以て、御居城の地となし給ふ、故に、日を重ね、月を追ひ、益繁昌におよび、今は、經緯拾里におよむ、て、都て、江戸と稱せり、萬國列侯の藩邸、市廛、商賈の家屋、鱗差して、縦横四衢に、充滿し、万戸千門、薨を、連ねたり、實に、海陸の大都會にして、扶桑第一の名境といひつべし。

〔南向茶話〕相州箱根金湯山早雲寺什物

一北條家分限帳之内に江戸廻りと稱する分

南 上平川 下平川 櫻田 國府方 阿左布 比々谷 大根原 目黒本村 下澀谷 三田

新倉 銀 三田之郷 品川南北 馬込 世田ヶ谷 川崎 局澤 六郷 大師河原 犬井

前野 泉邑

西 牛込 大胡領 小日向 領主 興津 加賀守 落合 中新居 千駄ヶ谷 小石川 雜司ヶ谷 富塚

原宿 市ヶ谷 石原 板橋 大谷郷 志村 練馬 高田 葛谷 横山 土志田 比留方